令和５年度第３回　校長「語らいサロン」

テーマ「幼稚園・保育園との連携について」

令和５年６月３日（土）９：００～１０：００
参加者　１０名

川中子　おはようございます。雨の土曜日の朝にお集まりいただきありがとうございます。それでは、今日は寄せていただいたテーマで、「幼稚園・保育園との連携」についてお話を聞きたいということで、少し用意してまいりました。ただ、幼稚園、保育園のことについて、小学校の教員はあまりよく知りませんので、もし詳しい方がいらっしゃったらお話を聞かせていただければと思います。よろしくお願いします。それでは、まず、簡単に自己紹介をお願いします。

Ａさん　１年生と５年生に娘がいますＡです。よろしくお願いします。

Ｂさん　３年生と６年生に娘と息子がいますＢです。よろしくお願いします。

Ｃさん　２年生の娘がいますＣです。よろしくお願いします。

Ｄさん　２年生の娘がいますＤです。よろしくお願いします。

Ｅさん　３年生と５年生に娘がいますＥです。よろしくお願いします。

Ｆさん　３年生に息子がいますＦです。よろしくお願いします。

川中子　ありがとうございました。それでは、小学校と幼稚園・保育園との関係ということで、まずどういう園から子どもたちが入学しているかを調べてみたんですけど。ご存知の園もあると思いますが、いかがですか。中川保育園というのはすぐそばにありますが、10 名入っていますね。・・・一人しか入ってない園もありますね。こうやってみて見ると、幼稚園が 23 名、保育園・子ども園も含めて 52 名が入学しています。すごい数ですよね。

いろんな幼稚園、保育園から来てるなあと感じます。子供たちは小学校入って、初めて出会うお友達っていうのも多いんじゃないかなと思います。このそれぞれの幼稚園・保育園と学校の先生がいろいろと話をして、どういうお子さんかっていうのを確認しているってことですね。

さて、小学校と幼稚園・保育園とでどんなつながりがあるかっていうと、もちろん受け入れる側と送り出す側ですのでおおきなつながりがあるのですが。連携して何かを具体的にやっているかというと、そんなに、一緒になってやるっていうことはないですね。特に過去３年のコロナ禍ではほとんどそういう機会はなくなってしまっていました。

幼稚園・保育園の先生になりたいって思っている子どももたくさんいますので、毎年秋に「キャリア教育特別授業」というの高学年の子供たちにやって、幼稚園の先生をしている方や保育士さんに来ていただいて子供たちにお話ししていただいています。とても人気で、たくさんの子供たちが参加しています。えー、こちらが幼稚園の先生（笑）。それから、これからいらっしゃるかなとおもうんですが、保育士さん。保育園の先生。「保育園の先生」とは、本当は言わないようですが。幼稚園と保育園というのは制度が違うようでして、私も詳しいことはよくわかっていないのですが、幼稚園は学校と同じ教育委員会の管轄で、保育園は教育委員会ではなく福祉関係の管轄になっているようです。子供を預かて福祉としてやっている。とにかく、性格の違うもののようです。（お二人入室）あ、ちょうど写真を出してお話ししていたところです（笑）。えー、こういうふうに、ほとんど毎年　ＢさんとＧさんには幼稚園の先生、保育士さんとして子供たちに授業をしていただいています。子供たちもとても熱心に話を聞いて、「将来保育士になりたいです。」とか「幼稚園の先生になりたいです。」という感想をもつ子もいます。おそらくですね、その子たちの中の何人かは本当になるんじゃないかなと思うんですね。やっぱり、小さい子供が好きだっていうお子さんが多いので。そのままその夢をかなえている人っていうのは、結構多いんじゃないかなってことです。Ｇさん、いらっしゃったばかりですみませんが、保育園は区立の保育園もありますし、私立の保育園もありますし、認可された保育園もあるし、まだ認可されていない保育園もあり、いろんな形態があるようなんですが、保育園自体はどこの管轄になるんでしょうか。

幼稚園は文科省、保育園は厚生労働省

Ｇさん　保育園は厚生労働省の管轄で、東京都に任されて、そして墨田区に任されて区の管轄になっているんですけど。幼稚園との違いっていうのは管轄の違いもありますけど、「養護と教育」っていう、保育園は「養護」も入っていて「教育」もするっていう施設になっています。今幼稚園も「プレ」とか２歳児っていうのも入っているんですけど、保育園は０歳児。０歳児といっても、生後四十何日っていうところから預かるところもあって、それは園によって違うんですけど、園によってそれぞれお預かりする年齢も違うんですけど、日中お仕事をされている保護者が主なんですが、その保護者に変わって保育をしています。

川中子　ありがとうございます。そうすると、幼稚園は、基本的には何時から何時までなんですか、Ｂさん？

Ｂさん　うちの園は８時半から２時です。

川中子　そうすると、幼稚園と保育園は、子どもを預かっている時間だけ見ても違いますよね。最近、その両方を兼ね備えたような「こども園」というのも自治体ごとに作られていると聞いています。

今子育ての問題は、自分が働きに行っている間にお子さんの面倒を見てくれるところがあるかというのはすごく大きな問題になっていて、墨田区でも一番の課題になっているみたいなんですね。子供の預かりとか放課後の居場所とか。先日も選挙がありましたが、各党の候補者が公約として挙げている項目のトップに子育て、子どもの見守り、居場所づくりになっているんだそうです。墨田区もそういうところに力を入れていかないと大変だということで。ちょっと聞いたところによると、３年生までは墨田区に住んでいるんだけれど、４年生になるとみてくれる人がいなくなっちゃうので、転居して別の区に行くという人が結構いるんだそうです。それは、区としても、すごく大きな問題みたいで、子どもの居場所づくりだったり、見守りだったりということを自治体がしっかりやっていかないといけないぞと、今真剣に取り組んでいるんだそうです。ですから、幼稚園や保育園に通うお子さんがいる保護者の方は、働きに行っている間に見てもらうところというのは、絶対的に必要で。今、いわゆる「共働き」っていうのかな、お父さんもお母さんも仕事をしているという家庭はかなり高い割合になります。ほとんどのご家庭がお父さんもお母さんも働いているということで、昔みたいにお母さんが専業主婦でおうちにいるっていうのは本当に少なくなっています。そういう風に見てくると、より長く預かっていただくためには幼稚園じゃなくて保育園にいれないとならないという状況があります。保育園を探している方がたくさんいて、一時期ＳＮＳですごいハッシュタグがついて話題にもなりましたが。一気に保育園の数は増えました、増えるには増えたけれど、しっかりした専門のスタッフがいないようなところもあって、実際に事故なんかも起こっていたり。私も昨年Ｔ先生という保育士さんのお話をネットで聞いたり、本を読んだりしていたんですが、そのＴ先生も、保育園で起こった事故なんかについて、実際保育士の勤務は過酷な状況で、どこで事故が起こってもおかしくない。改善対策が望まれる、という警鐘を鳴らしていました。学校も、幼稚園も保育園も、子どもを相手にしているところは、今本当に大変な状況にありますね。

では、私の方から、幼保小中連携というのを墨田区ではどのように進めているかを説明させていただきます。教育委員会にすみだ教育研究所という部署がありまして、そちらで幼保小中連携というのをどんどん進めています。小学校は中学校との連携と、幼稚園・保育園との連携っていう、両方を進めていくことになっています。

墨田区教育委員会の幼保小中連携

これが墨田区の幼保小中企画教育推進計画というもので、これは平成３０年につくられたもので、もう新しいものができているんですが。ここにどうして幼保小中連携していかなければならないのかっていうことが全部書かれているんですね。

一つはよく話が出るんですが、「小１プロブレム」っていう言葉を聞いたことありますか？　あと、「中１ギャップ」って

いうのもあるんですが。小１プロブレム。つまり、園から学校に入ると、生活がガラッと変わって、きちんと椅子に座って、先生のお話を黙って聞いていないとならないっていうようにいきなり変わるので、生活の変化に慣れないお子さんが出てきます。学校行くのヤダ！って。まあ、毎年５月くらいまでは、１年生は玄関のあたりで、行きたくない、入りたくないって、連れてきてくれたお父さん・お母さんにしばらく駄々をこねている風景は見られますね。

それから、二つ目のところ。「就学・進学を意識した取組」ということで、区のほうで私たちにしっかりやってくださいと言ってきているのが「保育要録・指導要録のより確実な引継ぎ」です。これは、学校と幼稚園・保育園がやっている中でも、一番重要な連携かもしれませんね。これは、小学校と中学校の間でもやっています。小学校を卒業して中学校に進学する子ども。それから幼稚園を卒園して小学校に入ってくる子ども。この子たちの様子を書いた書類を、しっかりと受け取って、そこに書かれた内容についてお互いにちゃんと情報交換をしてくださいというそういう意味です。それから、「スタートカリキュラム」っていうのを教育委員会で考えていて、小１プロブレムにならないような、円滑な接続ができるようなカリキュラムをいろいろ考えてくれていて、それに基づいた取り組みを進めていきましょうと。それから、「就学・進学期の授業体験、交流活動の実施」ということですが、これはコロナ前は本校にも中川保育園の子供たちが、１年生のクラスに体験に訪れて、１時間一緒に勉強した後、給食を食べる、なんて活動をやっていました。それがコロナになって全部なくなっちゃいましたので、そういうつながりがなくなってしまいましたね。

それから、「連絡協議会の実施、幼保小中一貫フォーラムの開催」ということで、実際、先生たち同士のつながり、子ども同士ではなく、先生同士のつながりはずっと続けています。毎年２回、小学校と中学校の授業を見て先生たちが交流する。大体前期に１回、後期に１回。今年は第三吾嬬小学校が当番こうなんですが、寺島中学校の先生と、第三寺島小学校の先生と近隣の園の先生方が見に来る。前期は中学校に行きますが、後期は小学校に来てもらいます。授業の様子を見た後に、先生たちがグループごとに話し合いをする。大体１年生の先生が幼保の先生方とグループになって、高学年の先生が中学校のそれぞれの教科の先生と別れてグループになるって感じですね。合わせて、夏休み中に、園の様子を小学校の先生が見学に行くという取組もありました。夏休み中ですから、だいたい保育園ですね。私も曳舟保育園と中川保育園に様子を見に行きましたね。子供たちがどんなふうにやっているのか見て、小学校に入ってくる前に子供たちがこんなにしっかりできるんだなっていうのを感じました。

今、教育委員会が扱っている区内の幼稚園というのが、区立幼稚園がこの６園。この春曳舟幼稚園が閉園になり、６園になってしまいました。さらに、この６園に入っている子どもの数も、びっくりするくらい少ないです。よく存続できるなって感じです。これは教育委員会のホームページにも挙がっていますけど。

幼稚園は、教育委員会の管轄なので、基本的に「教育」の施設ということになりますかね。大体 14 時くらいに終わるところが多いのでしょうか。区立の幼稚園は小学校と併設されているので、そういうところはグラウンドを一緒に使ったりとか、交流もあるのかと思います。三吾小は、珍しくそういう併設されているものが何もない学校で。本当に単独の小学校っていうのは区内でも本当に珍しいんですね。昔はここ（集会室のところ）に、障害のあるお子さんの「固定級」というのがあったらしいんですが。ある時まであったらしいのですが、その後なくなったようで。

「幼児期が終わるまでに身につけておきたい10の力」

これは、今皆さんにも見ていただいているものですが。これは本当はＢさんに説明していただいた方がいいようなものですが。「幼児期が終わるまでに身につけておきたい１０の力」といって、幼稚園での教育で取り組んでいるんだそうです。すごいですね。びっくりしてしまうんですが。この「育ってほしい力」というのは、大人になっても必要な力ばかりなので。一生かけて身に着けていかなければならない力じゃないかなと思います。「健康な心と体」「自立心」「協調性」「共同性」「道徳性、規範意識の芽生え」「社会生活とのかかわり」「思考力の芽生え」「自然とのかかわり、生命尊重」「数量や図形、標識や文字への感覚」「ことばによる伝え合い」「豊かな感性と表現」この１０個の力を身につけさせたい、と言って幼稚園の教育を行っています、ということです。それと、最近よく言われているのが、こういう言葉ですね。「認知能力」「非認知能力」特にこっちの「非認知能力」というのをつけさせたいと。非認知能力がないと、社会で他者と円滑にやっていくことができない、と。これが、幼稚園で行われていて、これが、小学校での読む力だったり書く力だったりにつながっていく、という説明になっています。

実際、幼稚園とか保育園では、ひらがなを読んだりする練習はするんですかね？　保育園でもするんですか？

Ｇさん　保育園では、決められてはいないんですけど、小学校就学時の年長さんは、自分の名前を書いたりとか、文章とか補助しながら書けるようにはしています。

川中子　幼稚園はどうですか？

Ｂさん　うちの園は言葉遊びを重視していて、年小の３歳児の時から、字ではなくて線をなぞる、鉛筆に親しむところから始めて、あいうえおを年中でやって、年長は５０音をやって、絵日記くらいまでは書けるようになって卒業していきます。

川中子　その子たちが小学校１年生に入ってきて、あいうえおの練習をするのを毎年見て歩くんですけど、上手に書ける子もたくさんいるんですけど、なかなか上手に書けない子もけっこういるんですね。小さい子は、だいたい、こう、文字の書き順っていうのがよくわからないみたいで、すごい書き方する子がいっぱいいますね。逆に書いていっちゃう子もいるんですね。よくあんな下から書けるな！と。まあ、そうやって、小さいころから少しずつ練習していって、小学校できちんと習ってと、そういう風にやっていきましょうということになっているんですね。

この第三吾嬬小学校でやっていることは、さっきも申し上げました通り、幼保小中連携ということでやっていることとして、小中の授業を見せ合ったり、そのあとで話し合いをしたり。このグループは、５つくらいの園が入っていますかね。それから、保育園見学っていうのは、私も参加しました。最初の年が曳舟保育園で、次が中川保育園。保育園の体験入学っていうのは、コロナ前はやっていました。１年生のクラスに入って一緒に勉強する。これは１年生にとっても非常に重要な授業で、今度新しい新１年生が来るんだよということを学ぶ非常に大事な行事であり、勉強です。生活科という中でやっています。１年生は学校の中ではかわいい、かわいいって言われていますが、結局次の子たちが入ってくると急にしっかりしたお兄さん・お姉さんになって。その分、園では最年長っていうんですか？一番上でしっかりやっていた子たちも、学校に入ってくると、何か赤ちゃんみたいな扱いをされて。同じ子なのに立場によって、いる場所によって違っちゃうんですよね。これは６年生が中１になったときも同じですね。６年生は大きくなったし、大人っぽくなったね、立派になったねって言われていたのに、中学に入るとかわいい子が来たねという感じになります。連携をしっかりやっていかないといけないっていうのは、つまり年長さんだったこれくらいのことができますよ。それが小学校に入ってくると、これぐらいのことができる子を、これくらい（低い位置）から始めてしまう。小６ならこれくらいできるのに、中１でこの辺から始めてしまうという無駄を極力小さくすることができるようになりますね。最終的に到達するところがかなり高くできるのではないか。

それから、幼稚園が主だと思うんですが、英語学習をやっていて。小学校の体育館で、ネイティブの先生たちが幼稚園の子たちに英語の体験学習のようなことをやっています。私たちのブロックでは、たまたま私もいたこともあって、英語で幼保小中連携をやろうということになっていました。それぞれの校種

で共通の言葉を使おうなんてことをやっていました。
　それから、２月の頭あたりに幼保小中フォーラムというのを区役所でやっていて、それまでの連携の様子について発表会を行っています。これは地域への公開もしていると思います。

保育要録・指導要録の引き継ぎ

　それから、とっても大事なところですが、先ほども申し上げた「保育要録、指導要録の引継ぎ」ということで。これは園のほうで卒園児について書いてもらったものを届けていただいて今度入学してくる子供たちがどんなお子さんなのかなということを確認しておく資料になっています。あわせて、情報の聞き取り。これは先生たちが手分けしてすべての園に連絡をしていただいた資料に基づいて、このお子さんはどんなお子さんですか？と詳しくお話を聞かせてもらっています。お会いしてお話を聞く場合と、電話での聞き取りの場合とがありますが、一人一人の聞き取りをしています。この子はこういうところに気を付けてくださいとか、〇〇ちゃんと××ちゃんは一緒にしない方がいいです、という情報をいただいてます。これはとっても重要な仕事で、小学校では１年生の担任が担当しています。そして、その１年生の先生が書類と聞き取りした情報をもとにして、できるだけ均等にクラス分けをするわけですが、まあ、だいたいふたを開けてみるとこんなはずじゃなかった！というようなことが毎年起こっていますね（笑）。
　それとあわせて、教育委員会のほうから就学相談の情報も届きます。園のほうで就学相談をうけたほうがいいですよと勧めてくれているんだと思うんですが、教育委員会に申し出て、あと療育に通っていた情報などが学校のほうに届けられます。こういうところを気を付けてあげてください、という情報を小学校のほうでいただいています。それを配慮しながらやっていこう、ということですね。はい。
　ということで、だいたい、このくらいかな？　実際、幼稚園の子や保育園の子が遊びに来て交流しているってことはほとんどありませんね。やっぱり、すぐそばにくっついていればそういうこともあり得ますが、ここは園とは離れていますので、なかなか難しいですね。
　まあ、できるとしたら、小学校側から園の方へ出かけて言ってしまうのは可能ですね。何かの機会に、みんなで保育園に行って遊んできましょう、という学習は可能かもしれません。そろそろ感染症も落ち着いてきているので、そういうのも考えていけたらいいかなと思います。
　さて、そろそろ、皆さんのお話をいろいろ伺いたいと思います。どうでしょうか。今、学校と園がどのようにつながっているのかなっていうのは少しイメージできたかと思うんですが。たぶん、この質問（今回のテーマ）をくださった方は、１年生の保護者の方だったので、おそらく、「保育園や幼稚園から、どれだけ学校は聞いているんですか？」っていう意味だったんじゃないかなと思うんですが。それは、さっき申し上げたように、書類のやりとりと聞き取りをしているということです。それでもお互いに、幼稚園や保育園ではそれほど問題だと思っていなかったけれど、小学校へ上がってみたら大きな問題だったということもあるのではないかと思います。小学校と中学校の間でも、あまり先入観を与えないように、という意図で、詳しく情報提供しなかったりしたこともかつてはありました。それで、教育委員会の方から、「適切にやるように」という指導が入るようになったんです。なるべくきちんと情報交換しましょう、ということになりました。でも、先生によっても感じ方は違うし、子供って置かれた場所によってまったく違って見えるものです。保育園や幼稚園ではそんなに問題にならなかったけれど、小学校でずっと椅子に座っていなさいと言われたらできなかった、ということはあります。今年の１年生にも各クラスに数名ずつそういうお子さんがいて、先生方はかなり大変な思いをされていますけれど。クラスによっては４人くらい動き回ってしまうので、先生一人では見ていられない状況です。動き回るって言っても、ただ動いているだけではなく、何かやりますからね。高いところに上って危なかったり、教室から出て行ってしまってどこかへ行ってしまった、と。先生たちは今これ（iPad）を使って、リアルタイムで「〇組〇〇ちゃんがいなくなりました」と情報共有して、気がついた人が対応する、ということをやっているんです。去年から。支援員さんたちもみんな持っていてくれて、「じゃ、私が行きます！」と駆けつけてくれます。まあ、これができているのは三吾だけだと思いますが。

療育から「まなびの教室」へ

Dさん　いいですか。そういうお子さんが、例えば、幼稚園・保育園で療育に行くっていうのがありますが、学校ではどういう風につながりますか？

川中子　学校では、基本的にはその療育につながっていたお子さんは、小学校に上がってくると、「まなびの教室」っていう、通級の特別支援教室で、いろいろソーシャル・スキルなどを学習をします。それも、十分、たっぷり時間をかけてやっているのではなく、週に２時間。１時間が個別の学習。先生と子供一対一の。それが終わると少人数、３，４人で先生数人と一緒に、グループで活動する勉強をします。１対１だと、だいたいどんなお子さんでもそれほど問題ありません。友達と一緒に、例えば、勝ち負けがあるようなゲームをやるといきなりけんかになることがあるので、そういうときにけんかにならないですむような勉強をしています。事前に療育の方から、教育委員会の就学相談を受けてくると、入学してはじめからまなびの教室で勉強ができるようになります。そこを通ってこないで同じような状況の子もたくさんいて。そうすると学校へ来てから、この子はまなびでお勉強した方がいいなと。保護者の人と話をして、いろいろな手続きを経て。それが今、最短でも半年くらいかかってしまいます。それと、もう一つ、定員が決まっていまして、先生が抱えられる数が決まっているし、１週間の中で授業を組むことができる数が決まっていますから、ここは今８人ぐらいの先生が三寺小から来てくれているんですが、その先生たちが見ることができる数は最大で４０名。で、現在、４０名マックスいますので、これから入りたいという人は、誰かが退級しないと入れない、待機状態になってしまいます。だから、幼稚園・保育園からちゃんとやってきてくれると、はじめから支援を開始することができるので、やっていただけるととっても有り難いし、子供にとってもよいことです。そういう特別に勉強する時間があるというのは。いきなり集団で、クラスの中だけでは身につけられない力を身につけることができますので。
　園の方は、いろいろ「活動」が多いと思うんですよね。活動しながら、いろいろと学んでいく。園の先生たちはよく言うんですが、「遊びを通して、学ばせる。」でも、子供って本当にその通りですよね。遊びから学ぶんであって、何か勉強して学んでいるのではなく。友達と一緒に遊んでいる中で、けんかしたりいろいろしながら学んでいるんですね。
　で、園の先生たちは、私たちが見ると、それこそ、今学校が目指している「主体性の育成」は園の方がよっぽどよくやっているな、と。どういうことかというと、子供がけんかしたりしたとき、園の先生は、「どうしたの？」〇〇ちゃんと〇〇ちゃんがけんかしたの？　仲裁して、じゃあこっちに謝りなさい！「ごめんね。」「いいよ。」…そんなことしませんよね、園の先生は！　あ、そう。けんかしたの、とか言って見てるだけですね。わざと。話はもちろん聞いてあげていますけど。直接、こうしなさい、ああしなさいということは園の先生たちはしません。それはとっても大事なことだなあということを小学校の先生にもわかってほしいなと思っているところで。子供たち同士で解決させる力を養っていかないと、だめです。小学校に入ってくるといろいろ面倒なことも出てきて、子供同士のトラブルが親のトラブルになったり。で、先生も、「はい。あなたが悪いね。謝りなさい！」ってふうに、やっていたんじゃないかな、と。今はそんな人いませんけど。小さい子は「ごめんね。」「いいよ。」で終わるんですけど、決して終わってないですよね！「いいよ」っていってる子がいかにもよくない顔していることもあります（笑）。それで、先生としては一応謝らせたから、この件はおしまい！って。それで終わっていないってことは、今までも知っていたんですけど。子供たちは自分で関係の中で学んでいかないと、力をつけていかないといけないので。よく「困った子がいるからなんとかしてください」と言われることがあるんですけど。それをなんとかしてあげちゃうと、それは子供の成長にとってはすごくマイナスだったんじゃないかなということを、最近すごく感じるのです。もちろん、ほったらかすのではありませんが。

どうでしょうか。学校と園の関係で、どうなっている？とか気になる点はありますか?

特になければ、園の先生方から、小学校にどんなことを望んでいるかとか、小学校のことをどう思っているかというのをお聞かせいただけたらと。あ、ほかに幼稚園、保育園の先生はいらっしゃいますか?　いらっしゃいますね。それでは、後でお話を伺います。

公立・私立によっても異なる教育理念

Ｂさん　今って、学区外の子も多いし、園も多くなってきているので、園によって到達目標が違うと思うんですね。前は学区内の保育園や幼稚園で連携していればできたことが、今はいろんな園から集まってくるので幼保一体化というのが難しいと思っています。連携するにも限度があるのではないかと思ってしまっています。

川中子　実際、幼稚園と保育園の連携っていうのはあるんですか？

Ｂさん　公立、私立によって違うんですけど、うちは私立なので、近隣だと押上小学校とは連携はとっていると思うんですけど。

川中子　そうですね、私立だと難しいかもしれませんね。私立の、自分のところの理念というのがあるでしょうからね。

Ｂさん　そうなんです。教育理念がたぶん、私立はそれぞれあると思うので。

川中子　公立は教育委員会が決めている部分もあるので、特色はあるけれど、目指しているのは同じですね。D さんはいかがですか。

小1プロブレムを解消する、本当の手立ては?

Ｄさん　私は、今保育園のパートをしているので、クラス担任としてクラスを運営している側ではないんですけど。私立幼稚園でも働いたし、子供は公立幼稚園にも私立幼稚園にも入れたし、今保育園で働いているし、保育園も何園かみているので、それぞれ場所場所でカリキュラムの内容もカリキュラムの、先生方のかみ砕き方も、それぞれ違うので、そのクラスの先生の考えが反映される印象が、すごくあるんですね。やっぱり、年長を持つ先生が、小学校に上がりますってなったとき何を一番気にするんだろう、っていったら、それこそ「教室ですわっていられるか？」っていうところにはなると思うんです。本当に昔みたいに、先生が、「座らないってどういうことなの?」っていうようなことを言ったら、今はＮＧじゃないですか。それを学校でもいったらＮＧじゃないですか。でも、授業のあり方は変わっていないっていうことがすごく気になっていて。だから校長先生が４月の全体会でああいうお話をされたときに、「ああ、変わってくるのかもしれない！」っていう期待がすごく大きかったので。だから、今日のこの「連携」。「学校にできることはありますか？」っていう質問にも、そういう期待みたいなものはもっているのではないかなと。この「幼児期までに育ってほしい１０の姿」っていうのも。うまくいえないんですが、これをできるようになってほしいって言うときのアプローチの仕方が、やっぱりそれぞれで。「できる」をよしとする人と、そこに子供が着眼できるようになっていくのをよしとする人と。いろいろだから、そういうのを話し合って、大人たちの認識をすりあわせていくことがすごく大事なんじゃないかなって、すごく思っています。

川中子　ありがとうございます。G さん。

要録（書類）だけでは伝わらないこと

Ｇさん　連携と言うことで言うと、要録ですが、保護者から開示請求があれば開示しなければなりません。去年の卒園児で２家庭ほど開示請求があり。もちろん、お見せして、保護者の方も納得されたんですけど。開示請求があるという前提では、「ここは」っていう詳しいところがうまく記入できないんですね。で、うちの園では要録は小学校に持参して、直接先生に手渡しして、先生に説明するので、書いてある内容以外にも直接お伝えすることができるんですけど。郵送されたり、「先入観を持たれたくない」とか、開示請求を考えなければならないからということで、詳しい内容が書けないと伝わらない部分もあると思うので、私は、直接先生方とお話しする機会というのは非常に大事なのかなと思います。サポートしていただきたいところ、保護者の方も気にされている部分など、いろいろなところがあって、伸ばしていけたらっていう願いがあるので

川中子　そうですね。本当に我々も小学校で要録というのを書いて中学校に送るんですが、受験の時の資料として書類つくりますよね。そう言うのって、基本的には「良いこと」を書いて送るので、「この子にはこういう問題があります」っていうのは、基本的には書かないですよね。まあ、せいぜい書けて「友達との関係作りが苦手」とか。むしろ、そう書いてあったら、かなり警戒しないといけない！って捉えますね。そのあたりのことは、書類の受け渡しだけではできないので。ちゃんと会って話できればいいですね。

私も今まで幼稚園や保育園に連絡を取ったことがあるんですが、中には、今度入ってくるお子さんの様子をお聞きしたいのですが、と言うと、園長先生が「大丈夫！　うちの卒園生はみんないい子ですから。もんだいありません。」って（笑）。でも、担任の先生とお話を…。「いらない、いらない！　みんないい子ですから！」という園もあるんですよ。私立の園だと、特に、園長先生のお考えがすごく大事だ、ということもあると思うんですが。実際、そこから入ってきた子はいい子が多いですけど、いわゆるいい子じゃない子もいて！　そういうのも含めて、「いい子」って言ってるんですよね。それは子供の見方なので、いたずらする子が「悪い子」ではないですからね。その子はその子でいいところがいっぱいあるわけで。おとなしく先生のいうことを聞いている子が「いい子」ではないかもしれない。何がいい子なのかっていうのも全然違うので。その先生はこう言ったけれど、こっちから見るとそうでもないということもあるかと思います。

でも、少しでもそういう情報があると、例えばクラス分けしたときに、極端にクラスによって差があるというのも、担任の負担も変わってきてしまうので、そういう情報もありがたいのです。

これからの学校が目指すべき方向性

えー、今Ｄさんに言っていただいたように、園で活動が中心だったのに、小学校になると椅子に座って生活するというのが中心になる。そのギャップはすごくおおきな違いになる。以前だったら、厳しく、背筋を伸ばして座りなさいとか、定規でペンペン！なんてやったり（笑)ってこともあったりして、そういうような先生もいらっしゃいましたけど、今はそういう先生はいなくなり、優しく「〇〇ちゃん、すわろうね！」なんて声をかけています。逆に言うと、「動いちゃいけません」っていう学校のシステムそのものを変えていかないといけないのかなと。一斉授業で、きれいにみんながおとなしく座って先生の言うことを聞いてなんて、そんなのはもう終わっていますよね。だけど、いくら落ち着きのない子でも、興味のあることに気をとられているときなんかは、すごい集中力を発揮しています。一心不乱に、周りのことなんて目に入らない。話しかけても気づかないくらいに。一人一人のお子さんの持っている、興味関心の良さを伸ばしていけるといい。学校を変えていかないと。みんなが一律に同じことを学んで、一律に同じレベルに子供たちが成長するなんてことを考えると、もう限界が来ていると、ここ１０年くらいずーっと思っています。だから、みどりの教室をつくったのもそのためで。みんなと一緒にいるのがつらいときは一人で勉強してもいいし。ざわざわしているのを苦手にしているお子さんは結構多いんですよ。私たちが想像しているよりも多いですね。騒音に絶えられない。聴覚の問題ですが。それで歩き回って出て行ってしまう。そういうお子さんが、例えば運動会の前になると本当にかわいそうで、一年の中ですごい憂鬱なひと月を過ごしているんだと思うんですね。うるさいんですよ、運動会って。音がガンガン出ていて、そこで踊らされたり、「やー！」とか言っちゃったり（笑)。その子にとってはものすごいうるさいんですね。そういうお子さんもいるってことを私たちは考えていかなければならないと思います。

ただ、世の中って言うのは静かな環境ばかりではないので、どこでどういうふうに過ごせるかっていうのを自分なりに見つけていけるようになるといいのかなと。

「マイノリティを切り捨てない社会」をつくる学校

そういう意味では、その幼稚園・保育園から、私たちが学ぶべきことはいっぱいあるってことが一つと、ギャップって言われているものをスムーズにする、というレベルじゃなくて、本当に学校のやり方そのものを変えていく時代になってきたかなと感じているんですよね。今までは、そういう、「学校」という箱の中に、押し込めていた。精神科のお医者さんたちは発達障害のあるお子さんたちにそういうことをするのは、はっきり「虐待だ」と言い切っています。私も何人かの子供たちを見ていて本当にそうだなと。耐えられないって言ってる子たちをここに置いておくことは虐待行為だなと。だけど、今までの学校は、日本のシステムそのものは、マイノリティを切り捨てる。マジョリティに合わせなさい！　マイノリティはわがままを言っているのではありません！っていう考え方をすごく強くやってきましたよね。だけど今、やっとマイノリティの人たちがマイノリティの思いを少しずつ発信するようになってきて、マイノリティの存在が見えるようになってきたんですね。その人た

ちがすごく苦しい思いをして生活してきたことがやっと見えるようになってきて、これ、ほおっておいていいの？って時代になってきている。そうすると、すべての人が自分の幸せを追求できるような社会にしていかなければいけないということを、学校がやらなければだめだと思うんですよね。学校でその反対のことをやっていて。本当は正しいことを教えなければいけないのに、正しくないことをやっちゃってたかなってことがわかってきたのかなってことですね。

それをどう変えていくのかっていうのは、すごく大変なことですけど、今学校で始めたことはそれに少しずつ近づいていくものであればいいなと、思っています。

では、本日は幼稚園・保育園の先生方にも参加していただきお話しすることができました。学校としてできることも考えていきますが、もし何か情報がありましたら、ぜひ教えていただければと思います。今年もまた、秋にキャリア教育も行いますので、またお話しいただけたら有り難いなと思っています。それでは、これで終わります。ありがとうございました